

1. 概要：

- ・初参加3名を含む総勢12名で「<人それぞれ>とはどういうことか？」という問いを掲げ、主に、どういう意図で使われるか、相手との関係性はどうかあるべきか、認められるか否かは公的／私的領域で違うかを対話し、考えた。

2. 対話：

(0) 問いの提起：

- ・進行役から「ある哲学カフェでは<人それぞれ>という発言について『対話がそれで終わってしまう』という理由から禁止している」ことを紹介した上で、「<人それぞれ>とはどういうことか」という問いを掲げて、最初にどういう場面で使われるかを参加者に尋ねて、対話を始めた。

(1) 具体例：どういう場面で言葉を言ったり言われたりしたか？

- a) その相手とは分かり合えなくてもいいと考えて話を打ち切りたいとき、b) 1000円の散髪を利用して、相手か5000円の散髪に変えてオシャレに気を遣う方が良いと諭されたとき、c) 地域活動の場で自分が想定する常識とかけ離れた意見を（最終段階の多数決の前に）言われたとき、d) そこにいない第三者に対して激しく怒っている相手をなだめるとき、e) 子育ての場面で相手の子供の成長が標準よりも遅れている点に関してその相手が不安そうなとき。

(2) <人それぞれ>はどのような意味／意図で使われるか？

- ・ニュートラル：f) 用済後に水を流すときトイレのフタを開けたままか閉めてからか。フタを閉めてから水を流す方がトイレ内の水が飛散せずに床が清潔な状態が保てるという理屈は分かる。公衆のトイレは別だが、私用トイレならフタを閉める労力よりも定期的に床清掃をした方が良いと判断するため、ここは<人それぞれ>とさせて欲しい。
- ・ニュートラル：g) 筋トレを始めた。タンパク質の摂取量は<人それぞれ>である。過剰摂取が腎臓に負担がかかることは分かっており「胃で消化できる摂取量(g)=体重(kg)×3~4」と言われる。当然3倍で十分な人がいれば4倍でも足りない人もいて、胃で消化できる摂取量は<人それぞれ>である。
- ・ポジティブ（子育ての場面 e）：大事な相手との関係性において<人それぞれ>は寂しい。だから、同じ土俵に立っている／深い部分で繋がりたいと思う意図がある。相手を励ましたり、安心させたりしたいという意図を表明したいときに使われる。
- ・ニュートラル（屋外のマスク着用 h）：現在外は暑いので熱中症を気にして人との距離があれば、私はマスクを外しているが、頑なにマスクを着用している人も多く、多数のプレッシャーを受ける。
- ・ネガティブ（相手との話を打ち切りたい場面）：自分の想定とは異なる常識や生き方（≒価値観）を相手が示して自分の意見と合わないことが判明し、自分を納得させたいときに使われる。→その相手の意見に驚きや発見があったときにも使われる。→この使い方では、相手と違う点だけに目が向いてしまい、相手との意見にあるはずの共通部分から目を背けてしまう態度である。散髪の事例 b)なら、支払う金額に違いはある一方で、定期的(例：3ヶ月に一度の頻度)に散髪をすることはさっぱりして良い気分になりたいという点は共通であるはず。→相手と共通点を探す過程で、どうしても探せずにもう別れたい相手をはぐらかす態度である。

(3) <人それぞれ>が使われるときの相手との関係性はどうかあるべきか？

- ・ネガティブな使い方では、相手との対立を避けて逃げる態度である。相手との関係性で信頼があれば、この言葉を使う必要はなく意見が対立しても問題にならない。この言葉を使わないと乗り越えられない関係性は信頼感が少ない場合である。
- ・e)の例を踏まえると、大人も互いの個性を尊重する／されるべきである。私はオシャレ好きだが、b)の例なら相手に対して「散髪にそこまで金銭を使わなくていいね」と言える関係性になることが望ましい。→この言葉は相手との違いを尊重する言葉をさぼる口実ではないか。
- ・f)トイレの水を流す際にフタをどうするか例：私用トイレは勝手にさせて欲しいという意味と思うが、自宅に自分だけの場合はOKだが、自分以外の家族がいる場合は<家族それぞれ>と言うべきで家族の意見を含めた合意が必要である。相手への敬意が足りない場面で使われてないか。公衆トイレの場合は、不特定多数の人が使うので使用に当たってフタに関してもルール化すべきである。
- ・ニュートラルの意味：i) 私はパクチャーが好きだが、嫌いな人も当然いる。好みは本当に人それぞれなので、この場合にこの言葉を使うが、相手に尊重する態度が必要である。→ネガティブな使い方では、相手に信頼が置けないか、相手への敬意や尊重の態度が欠けている。

(4) <人それぞれ>が認められる否かは公的領域と私的領域とで違うか？

- ・使う状況による。公的領域ではこの言葉が邪魔になる。私的領域では相手との距離を意識する。
- ・人は違っても共通点はある。j) 障害者は多様でそれぞれニーズが異なる。一人の車椅子使用者のニーズを揃えることによって駅の階段がスロープ化されると、健常者も荷物を運び易くなったり、乳母車を押し易くなったりする。一人が抱える問題を解決することが楽になる人々を増やすことに繋がりが多くの人が抱える問題を社会的に解決できることがある。→相手との間には共通点が沢山あるはずだが、どこからが同じで、どこからが違うのか分からなくなる。
- ・特性（健常・障害 j）を良い意味から同じ土俵に乗せて考えるように、という言葉を使う場面では、何を意味したいのか—その相手と関わっていききたい（関心を寄せる）という意図を持つのか、そうでないのか—を良く考える必要がある。
- ・この言葉が使われるとき、集団レベルは、「確かに」と言い合える関係性を含めて（この言葉が放つ意味の）負担を抱えられるか否かは集団のキャパシティーに関わる。個人レベルでは、その言葉によって個人が壊れないキャパシティーが必要である。キャパシティーは時代や環境、集団の性格によって異なる。極論だが、k) 戦争になれば、「日本男児」という言葉によって集団の中の個人には同質性が強要されて、人それぞれは認められない。→筋トレのタンパク質の例 g)では現在は認められている。→障害の例 j)では認められる範囲が時代と共に広がってきている。
- ・公的領域では、集団の中で他者を傷付けることはまずいため、認められない。個人の内面領域に留まる限りでは、絶対的に認められるべきである。→l (=私的領域)に留まれば色々な人がいても許されるが、YouやThey (=公的領域)になれば合意形成への具体論が必要となるため(最終的には多数決になるが)、許される範囲は限定される。→公的領域と私的領域の区別は一見明確のようだが、事例 j)からもその区別は曖昧となることがある。

3. まとめ

- ・<人それぞれ>という言葉を使うときは相手への敬意や尊重の意図が必要である。また、私的／公的領域での意味の違いは一見明確なようで曖昧となることもあることが分かった。提題者としては、<人それぞれ>という言葉にポジティブな意味があることを発見できたことは収穫であった。